

地域医療構想の推進に関する意向調査の結果

1 病床機能報告制度の内容(許可病床ベース)

(1)これまでの経過と2025年の見通し

年度	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
H28	569	1,628	253	1,031	163	3,644
H29	608	1,668	253	936	129	3,594
H30	391	1,752	282	1,069	85	3,579
2025	403	1,705	301	991	58	3,458

※H28・29は当時の病床機能報告ベース、H30・2025は今回調査ベース

(2)H30の内容を「病床単位」とした場合

年度	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
H30	403	1,711	315	1,065	85	3,579

(3)「病床機能の転換」、「病床の廃止」の予定又は検討状況

名称	内容
釧路労災病院	H31. 2に急性期病床50床を回復期病床（地域包括ケア病床）に転換
標茶町立病院	新改革プランで10床減の予定
摩周厚生病院	①一般病床の削減、②療養病床の介護医療院への転換を検討
市立釧路総合病院	新棟建設事業の延期に伴い、効率的な病床配置を検討。
釧路協立病院	非稼働であった療養病床（慢性期）45床を廃止し、H30. 10に看護小規模多機能型居宅介護を開設

(4) 過剰な病床機能への転換予定

	区分	箇所数	病床数
H29→H30	高度→急性期	2	217
	急性期増	1	3
	休棟等→急性期	1	3
	回復期減	1	-3
	休棟等→慢性期	1	45
	急性期→慢性期	2	69
	回復期→慢性期	1	19
H30→2025	急性期→高度	1	12

(5)非稼働病床を有する医療機関の見通し(非稼働病床についてはH30意向調査での数)

病床機能	数	主な理由
(1)の急性期に含まれる病床	37床	・看護師の確保が困難 ・開設時の要件として病床が必要 ・入院日数の減少による
(1)の慢性期に含まれる病床	64	・医師及び看護師の不足、患者数の減少
休棟等	85床 (未回答19床含む)	・稼働率の減少が続いたことによる影響 ・開設時の要件として病床が必要 ・医師及びスタッフの確保が困難(確保できれば再開) ・医師及び看護師などの不足(病床機能の地域ニーズ及び見通しも含め検討を継続)

2 今後担うべき役割

選 択 肢	名 称	内 容
救急患者の受入れや手術など高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う	市立釧路	センター病院、救命救急センターとして高度医療・急性期を中心とした役割を果たす。 また、患者の急変時等に対応するため、在宅医療を担う関係施設等を後方支援する。
	孝仁会記念	
	釧路労災	がん診療連携拠点病院として、緩和ケアを含む総合的ながん治療を目指すほか、検診等がんの予防・啓発や治療と就労の両立支援に努める。地域医療支援病院として地域との連携強化を図る。二次救急輪番制の体制維持。 地域包括ケア病床を設置し、サブアキュートを受け入れることで循環型地域連携システムの中核的役割を担う。
	東北海道	
近隣の高度・専門医療を提供する医療機関と連携しつつ救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する入院医療等の急性期医療を担う	釧路赤十字	総合周産期センターとして体制整備に努め、急性期機能を維持する。 また、地域包括ケア病棟や訪問看護ステーションも有することから、急性期・回復期・在宅のつながりの中で中心的役割を担う。
	三慈会	当院が一番力を入れている「地域密着型の病院」を保持しつつ、患者、他医療機関との連携を一番に考え、より良い病院を目指す。
	標茶町立	町内唯一の医療機関として左記の役割を継続する。
	摩周厚生	町内唯一の救急対応可能な医療機関として24時間対応が必須となるほか、市内専門医療機関からの受け入れも含め、回復期・慢性期・終末期まで全ての段階に対応しなければならない役割を担っている。
	町立厚岸	
	カケハン眼科	
	新橋肛門科	
	中村眼科	
足立泌尿器科		
近隣の高度・専門医療を提供する医療機関と連携しつつ急性期経過後のリハビリテーションを担う	釧路協立病院	外来、在宅医療を中心に、入院機能においては院内だけでなく院外からのサブ・ポストアキュート機能の役割を担う。
	星が浦	回復期リハビリテーション病棟を有していることから、在宅復帰に向けた支援を行う。
長期にわたり療養が必要な患者に対する入院医療を担う	釧路北	
	釧路中央	
	白樺台	
	川湯の森	
	釧路脳神経外科	現在、慢性期病棟中心だが、今後、回復期、地域包括病棟なども検討。
	釧路第一	急性期からの受け入れ及び地域における内科、皮膚科、外科患者のかかりつけ医的存在。
	太平洋記念みなみ	医療機関・介護施設等と連携し、比較的症状が軽い患者に対する入院医療等を担う。
	釧路谷藤	
つるい養生邑	医療・介護・福祉において自治体と連携を深めつつ、認知症や精神疾患に対する医療を柱に継続していく。	
かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う	釧路市音別	
	釧路市阿寒	
	釧路レディース	産婦人科として入院の必要のない治療を行い、主に市立・日赤と連携して地域医療を担う。
	町立浜中	
林田	慢性腎臓病、心疾患患者の重症化予防、透析治療	

3 地域における課題

選択肢	回答数	内 容
医療機関の機能(診療科)や体制(救急医療体制等)が一部重複し、役割分担が必要。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急医療体制については、医師会を中心に各医療機関の協力の中、地域で完結していると思うが、診療機能については、医療や看護の必要度に応じた医療機関ごとの役割分担は必要。 ・ 医療機関の機能や体制の構築について検討が必要。 ・ 市の救急医療体制は公的3病院に依存しなければ維持が困難な状況。一次から三次救急までの棲み分けを行うとともに医師会を中心とした救急医療体制の再構築が急務。 ・ 医師不足の状況から、現在の役割分担が適切なのかという課題がある。
急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる回復期機能の確保に向けた検討が必要。	9	
限られた医療資源(病床や医療従事者等)を有効に活用するため、医療機関の再編・ネットワーク化に向けた協議が必要。	12	
住み慣れた地域や自宅での生活を支えるため、その受け皿となる在宅医療の確保に向けた検討が必要。	17	
その他	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師など人的医療資源が乏しく、地域としての医師などの人材確保が課題。

4 再編・ネットワーク化

(1) 他の医療機関との役割分担・連携

項目	回答数	主な内容
分担・連携している	8	市立釧路:平成22年度から前方・後方連携に対応する体制を取り、平成25年度に医療連携相談室を設置 釧路赤十字・釧路労災:相互の診療応援等 孝仁会記念:急性期から慢性期への連携(白樺台病院) 東北海道病院:市立釧路総合病院との大腿骨頸部骨折の連携 摩周厚生:専門医への患者紹介や町内診療所からの患者受入れなど 釧路第一:急性期病院からの患者受入れ 中村眼科:釧路市有床診療所医療安全ネットワーク加盟
予定はないが興味あり	12	
予定なし	7	

(2) 地域医療連携推進法人

項目	回答数	主な内容
法人の立ち上げを予定している	1	
予定はないが興味あり	8	
予定なし	19	

(3) 患者情報共有ネットワーク

項目	回答数	主な内容
分担・連携している	13	メディネットたんちょう(情報開示施設:10施設、情報閲覧施設:58施設) 釧路地域脳疾患救急画像ネットワーク~脳卒中等救急患者の画像診断、治療方針の連携、画像読影(孝仁会記念、釧路協立、釧路脳神経外科、新しくろクリニック星が浦、根室管内5医療機関)
予定はないが興味あり	8	
予定なし	5	

5 開設者の変更予定

なし